

しろくまテスト 第三回 問題編

1 次の文の「さえ」と同じ意味に使われているものを後から選りなさい。

ゴリラの餌づけだってできるというのだから、と話し合っではいるものの、この野生の子猫は、人間の姿「さえ」みればすっとなで逃げる。

ア そばで見ている「さえ」はらはらする。

イ 君「さえ」よければそれでよい。

ウ 両親だけでなく兄弟に「さえ」死に別れた。

エ 犬で「さえ」恩を知る

2 次の文の「ながら」と同じ意味に使われているものを後から選りなさい。

この話には子ども「ながら」に感動した。

ア 涙「ながら」に話す。

イ 食べ「ながら」本を読む。

ウ 生まれ「ながら」の天才だ。

エ 狭い「ながら」も楽しいわが家。

3 次の「の」の中でちがった働きをするものを一つ選りなさい。

ア お正月に百人一首のかるたで遊んだこと「の」ある人も多いと思います。

イ 近所のおじいさんが、奇妙な声でうなっている「の」を聞いたことはありませんか。

ウ からだがむずむずして自然に声に出したくなる「の」が、他の言葉とはちがう詩というものの魅力だったと言ってもいいでしょう。

エ 詩はあくまでもひとりひとりの人間の心とからだと声によって生まれる「の」が基本だと思います。

オ 私も三十年ほど前から自作朗読という「の」を人前でするようになりましたが、初めのうちはとても緊張して胃が痛くなったほどでした。

4 次の「れ」「られ」の中でちがった意味で使われているものを一つ選びなさい。

ア お米の中にふくま「れ」ている養分が、ちょうどよい水かけんと、火かけんのために、そこにあふれ出ようとして、あふれ出ないで、やっとふみとどまったようなかたち。

イ このごろはおはちも見「られ」なくなりました。

ウ でも、おぼえているでしょう。ぴかぴか光る赤のたがのはめ「られ」たおはち。

エ 焼けださ「れ」てお茶わんがなければ、おわんで食べたっていいじゃないかと言うのはりくつです。

5 次の文中の「ばかり」と同じ意味で使われているものを後から一つ選びなさい。

机の上のペン皿にある消しゴムで消してみたが、色はいつこうに落ちなかった。それ「ばかり」か消しゴムで強く消し過ぎたために紙が少し破れてしまった。

ア 二時間「ばかり」休んだ。

イ 目をうばう「ばかり」の美しさだ。

ウ きれいな「ばかり」で役には立たない。

エ 引き受けた「ばかり」にひどい目にあった。

6 次の説明にあてはまることわざ・慣用表現を答えなさい。

(1) 有力者の権勢をかさに着て、いばる者のたとえ。

(2) きわめて危険なことをすることのたとえ。

(3) はげしくよっぱらってしまう。

(4) 大切にしておかないもの。秘蔵の金品。

(5) 秘伝を記した書。講義のたね本。そのことに関する手軽な解説書・指導書。

7 ()に共通して入る漢字一字を考えなさい。

出 () () (習・主) () (共) () 答え () ()

しろくまテスト 第三回 解答・解説編

1 イ

2 エ

3 ア 「の」は「が」に置き換えられるものと、「コト」に置き換えられるものの判別がよく出題されます。

4 イ

5 ウ 「ばかり」は「範囲」を示すものです、アは「ほど」、イは「と思われる」、エは「ために」と置換できます。ウは「ということだけ」となりますよね。

6

「虎の威を借る狐」

「虎穴に入らずんば虎子を得ず」

「虎になる」

「虎の子」

「虎の巻」

7 演